

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 29 年 2 月 4 日 13 時 45 分～16 時 00 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 52 問で解答時間は正味 2 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1) の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 201 歯科医業が行えるのはどれか。1 つ選べ。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 歯科医籍登録日以降

(例 1) の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

<p>答案用紙①の場合、</p> <p>201 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>201 <input type="radio"/> a <input type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input checked="" type="radio"/> e</p>	<p>答案用紙②の場合、</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">201</td> <td style="text-align: center;">201</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> a</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> b</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> c</td> <td style="text-align: center;">→ <input type="radio"/> c</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> d</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="radio"/> e</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/> e</td> </tr> </table>	201	201	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> e
201	201												
<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> a												
<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> b												
<input type="radio"/> c	→ <input type="radio"/> c												
<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> d												
<input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> e												

(2) (例2)の問題では a から e までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例2) 202 歯科医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **(a)** と **(e)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

202	<b>(a)</b>	<b>(b)</b>	<b>(c)</b>	<b>(d)</b>	<b>(e)</b>
			↓		
202	●	<b>(b)</b>	<b>(c)</b>	<b>(d)</b>	●

答案用紙②の場合、

202	202
<b>(a)</b>	●
<b>(b)</b>	<b>(b)</b>
<b>(c)</b>	→ <b>(c)</b>
<b>(d)</b>	<b>(d)</b>
<b>(e)</b>	●

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 203 平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの歯科医師数が最も少ないのはどれか。1つ選べ。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 福井県
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例3)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

203	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
203	a	b	c	d	●	f	g	h	i	j

↓

答案用紙②の場合、

203	203
a	a
b	b
c	c
d	d
e	●
f	f
g	g
h	h
i	i
j	j

→















1 72歳の男性。下顎左側臼歯部の食事時の痛みを主訴として来院した。半年前に修復物が脱落し、そのままにしていたという。自発痛と打診痛はない。窩底を探針で探ると激しい痛みとわずかな出血を認めた。初診時の口腔内写真(別冊No. 1A)とエックス線写真(別冊No. 1B)を別に示す。

考えられるのはどれか。1つ選べ。

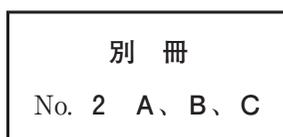
- a 特発性歯髄炎
- b 急性化膿性歯髄炎
- c 慢性潰瘍性歯髄炎
- d 慢性増殖性歯髄炎
- e 慢性閉鎖性歯髄炎



2 92歳の男性。咀嚼困難を主訴として来院した。3年前に脳梗塞の既往がある。上顎右側側切歯、上顎左側側切歯および第二大臼歯は保存不可能のため抜去し、下顎には両側犬歯を支台歯とする部分床義歯を製作することとした。初診時の口腔内写真(別冊No. 2A)、エックス線写真(別冊No. 2B)及び上顎の補綴治療計画の模式図(別冊No. 2C)を別に示す。

上顎の治療方針で適切なのはどれか。1つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



3 生後1か月の乳児。歯の早期萌出が気になり小児科からの紹介で来院した。授乳は哺乳瓶で行っている。その他の口腔内所見に特記すべき事項はない。初診時の口腔内写真(別冊No. 3)を別に示す。

今後の可能性として保護者に説明すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 先天歯の齲蝕
- b 歯肉嚢胞の発症
- c 後継永久歯の癒合
- d 先天歯の骨性癒着
- e Riga-Fede 病の発症

別 冊

No. 3

4 71歳の男性。オーバーデンチャー未装着時と義歯試適時の口腔内写真(別冊No. 4A、B)と完成義歯の写真(別冊No. 4C)を別に示す。

4Bから4Cへの過程で使用するのはどれか。2つ選べ。

- a アクリル系軟質裏装材
- b 金属接着性プライマー
- c シリコンゴム印象材
- d 加熱重合型アクリルレジン
- e 常温重合型アクリルレジン

別 冊

No. 4 A、B、C

5 33歳の男性。下顎左側智歯周囲炎のため、抗菌薬の点滴静注を開始した。投与開始5分後から皮膚の掻痒感と嘔声が生じた。血圧70/40 mmHg、心拍数98/分で、次第に意識消失も認められた。

投与すべき薬剤はどれか。1つ選べ。

- a  $\beta$ 遮断薬
- b ミダゾラム
- c アドレナリン
- d 抗ヒスタミン薬
- e 副腎皮質ステロイド薬

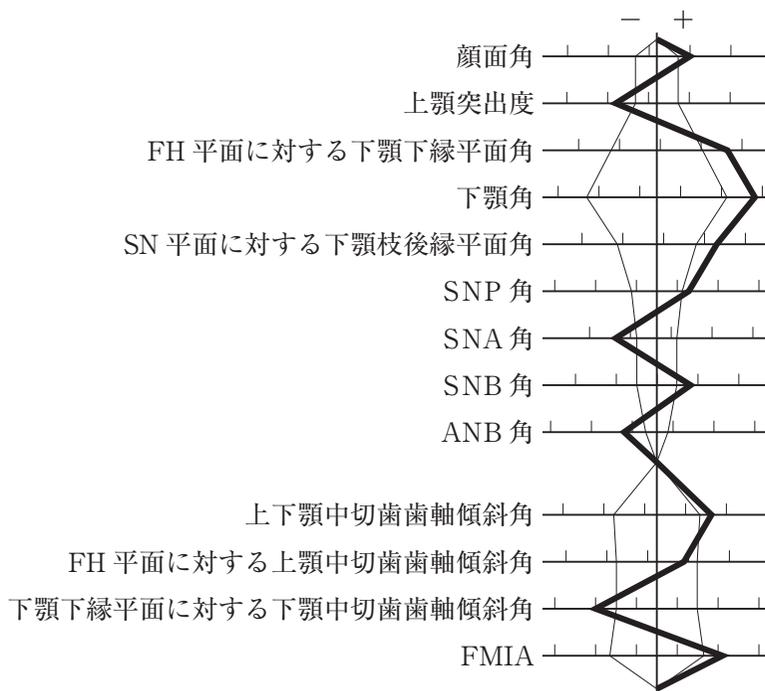
6 55歳の男性。下顎左側臼歯部の腫脹を主訴として来院した。5年前に気付いたがそのままにしていたという。診察の結果、生検と開窓を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 5A)、エックス線写真(別冊No. 5B)、CT(別冊No. 5C)、生検前の穿刺液(別冊No. 5D)及び生検時のH-E染色病理組織像(別冊No. 5E)を別に示す。

診断はどれか。1つ選べ。

- a 残留嚢胞
- b 歯原性粘液腫
- c 単純性骨嚢胞
- d エナメル上皮腫
- e 角化嚢胞性歯原性腫瘍

別 冊 No. 5 A、B、C、D、E
------------------------

7 20歳の女性。咀嚼障害を主訴として来院した。外科的矯正治療を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 6A)とエックス線写真(別冊No. 6B)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



術前矯正治療の目標として適切なのはどれか。1つ選べ。

- a 下顎前歯の唇側傾斜
- b 下顎大白歯の遠心移動
- c 上顎歯列弓の側方拡大
- d オーバージェットの改善
- e Angle I級の咬合関係の獲得

別冊  
No. 6 A、B

8 68歳の女性。咀嚼困難を主訴として来院した。検査の結果、上下顎全部床義歯を新たに製作することとした。アルジネート印象材を用いて概形印象を採得した後、個人トレーを製作し、最終印象を行った。下顎概形印象の写真(別冊No. 7A)と筋形成した機能印象の写真(別冊No. 7B)を別に示す。

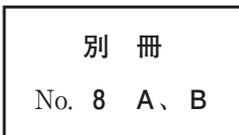
7Bで採得されている義歯製作に必要な形態指標のうち、7Aで採得されていないのはどれか。1つ選べ。

- a 頬 棚
- b 舌小帯
- c 下唇小帯
- d 後顎舌骨筋窩
- e 前顎舌骨筋窩

別 冊 No. 7 A、B
------------------

次の文により 9、10 の問いに答えよ。

28 歳の男性。上顎右側中切歯の審美不良を主訴として来院した。5 年前に転倒して 1] を強打し切縁部を破折したがそのままにしていたという。1] に動揺はなく、咬合状態は良好である。歯冠破折部のコンポジットレジン修復と漂白処置を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 8A)とエックス線写真(別冊No. 8B)を別に示す。



9 処置の順序で正しいのはどれか。1つ選べ。

- a 漂白処置 → 感染根管治療 → 切縁部の修復
- b 漂白処置 → 切縁部の修復 → 感染根管治療
- c 感染根管治療 → 切縁部の修復 → 漂白処置
- d 感染根管治療 → 漂白処置 → 切縁部の修復
- e 切縁部の修復 → 漂白処置 → 感染根管治療

10 漂白処置に使用する薬剤はどれか。2つ選べ。

- a 過酸化水素水
- b シュウ酸カリウム
- c フッ化ナトリウム
- d 過ホウ酸ナトリウム
- e 次亜塩素酸ナトリウム

11 9歳の女兒。歯の交換が遅いことを主訴として来院した。他に特記すべき疾患はない。初診時の口腔内写真(別冊No. 9A)とエックス線写真(別冊No. 9B)を別に示す。

未萌出の永久歯(先天欠如歯を除く)はどれか。1つ選べ。

a  $\frac{4\ 3\ 3}{4\ 3\ 3\ 6}$

b  $\frac{4\ 3\ 3}{4\ 3\ 3\ 4\ 6}$

c  $\frac{4\ 3\ 3\ 4}{4\ 3\ 3\ 4\ 6}$

d  $\frac{4\ 3\ 2\ 2\ 3}{4\ 3\ 3\ 6}$

e  $\frac{7\ 4\ 3\ 3\ 7}{7\ 4\ 3\ 3\ 6\ 7}$

別 冊  
No. 9 A、B

12 82歳の女性。上下顎全部床義歯の不適合を主訴として来院した。リラインでの対応は不可能と判断し義歯を新製することとした。義歯製作過程の写真(別冊No. 10)を別に示す。

本操作の目的と同様なのはどれか。1つ選べ。

- a FGP テクニック
- b チェックバイト法
- c パウンドテクニック
- d オルタードキャスト法
- e ニュートラルゾーンテクニック

別 冊  
No. 10

次の文により 13、14 の問いに答えよ。

53 歳の男性。上顎左側臼歯部の腫脹と出血を主訴として来院した。6 年前に同部の加療を受け、メンテナンス期間中は良好に経過していたが、2 か月前からブラッシング時の出血を自覚しているという。プロービング前後の口腔内写真(別冊 No. 11A)とエックス線写真(別冊 No. 11B)を別に示す。



13 診断はどれか。1つ選べ。

- a 上顎洞炎
- b 歯肉線維腫症
- c 金属アレルギー
- d インプラント周囲炎
- e インプラント周囲粘膜炎

14 追加する検査はどれか。2つ選べ。

- a 生 検
- b 咬合接触検査
- c パッチテスト
- d 咬合法エックス線検査
- e 歯科用コーンビーム CT

15 72歳の女性。上顎左側側切歯の歯肉の異常を主訴として来院した。6か月前に根管治療を受けたという。打診痛と根尖部歯肉圧痛を認め、プロービングデプスは全周2mmであった。初診時の口腔内写真(別冊No. 12A)、エックス線写真(別冊No. 12B)及び追加撮影した歯科用コーンビームCT(別冊No. 12C)を別に示す。

歯科用コーンビームCTで新たに得られた所見はどれか。2つ選べ。

- a 管外側枝
- b 歯根破折
- c 根尖部穿孔
- d 皮質骨断裂
- e セメント質剝離

別 冊 No. 12 A、B、C
---------------------

16 78歳の女性。両側の下顎犬歯の歯冠破折による義歯不適合を主訴として来院した。検査の結果、 $\overline{3|3}$ の補綴処置後にオーバーデンチャーを製作することとした。作業模型の写真(別冊No. 13)を別に示す。

維持力の増強を目的として適用可能な装置はどれか。2つ選べ。

- a 根面板
- b バーアタッチメント
- c 歯冠外アタッチメント
- d 歯冠内アタッチメント
- e スタッドアタッチメント

別 冊 No. 13
---------------

17 49歳の女性。慢性歯周炎と診断し、歯周基本治療を行い、下顎右側第一大臼歯は予後不良と判断し抜去した。再評価の結果、下顎右側第二大臼歯に歯周外科治療を行うこととした。術中の口腔内写真(別冊No. 14A)、エックス線写真(別冊No. 14B)及び器具の写真(別冊No. 14C)を別に示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

舌側*	4	4	5
歯種	7		
頬側*	4	3	7
動揺度	0		

\*：プロービング深さ(mm)

丸印で示す部分の処置に使用する器具はどれか。2つ選べ。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

別冊  
No. 14 A、B、C

18 50歳の女性。下顎右側第一小臼歯修復物の破折を主訴として来院した。2日前に硬いものを噛んだときに破折したという。エアーで一過性の疼痛を認める。患者は同じ材料での修復を希望している。間接修復を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 15A)とエックス線写真(別冊No. 15B)を別に示す。

窩洞形成で留意すべきなのはどれか。1つ選べ。

- a 保持溝の付与
- b 窩縁斜面の付与
- c 舌側咬頭の削除
- d 凸隅角部の曲面化
- e アンダーカットの付与

別 冊 No. 15 A、B
-------------------

19 59歳の女性。上顎左側第一大臼歯の歯肉腫脹を主訴として来院した。1週前に食事中に激痛があり、その後歯肉が腫脹してきたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 16A)と補綴装置除去後のエックス線写真(別冊No. 16B)を別に示す。

適切な治療はどれか。1つ選べ。

- a スケーリング・ルートプレーニング
- b 歯根分離
- c トライセクション
- d 意図的再植
- e 抜 歯

別 冊 No. 16 A、B
-------------------

20 9歳の男児。歯の審美不良を主訴として来院した。色調と粗造感は萌出時から変化していないという。軽度の冷温痛がみられるが、自発痛はない。初診時の口腔内写真(別冊No. 17)を別に示す。

考えられる原因はどれか。1つ選べ。

- a 熱性疾患
- b 遺伝性疾患
- c ビタミンK欠乏
- d フッ化物の過剰摂取
- e 炭酸飲料水の頻回摂取

別 冊

No. 17

21 12歳の男児。言語異常を主訴として来院した。幼少時に口蓋裂の手術を受け、その後言語治療を受けていなかったという。鼻咽腔内視鏡検査で鼻咽腔閉鎖不全と診断された。/ア/発声時の鼻咽腔内視鏡検査の画像(別冊No. 18A)と治療に用いた装置(別冊No. 18B)を別に示す。

装置の調整に有用な検査法はどれか。2つ選べ。

- a MRI
- b 頸部聴診法
- c パラトグラム検査
- d ブローイング検査
- e 側面頭部エックス線規格撮影

別 冊

No. 18 A、B

22 75歳の男性。上顎右側中切歯と側切歯の審美不良を主訴として来院した。6か月前から気付いていたが強い痛みがないのでそのままにしていたという。エアーで一過性の疼痛を認めるが、他に症状はない。検査の結果、修復処置を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 19)を別に示す。

適切な修復材料はどれか。2つ選べ。

- a コンポジットレジン
- b リン酸亜鉛セメント
- c グラスアイオノマーセメント
- d 酸化亜鉛ユージノールセメント
- e タンニン・フッ化物合剤配合ポリカルボキシレートセメント

別 冊

No. 19

23 1歳8か月の男児。上顎前歯部の白濁を主訴として来院した。母親は仕上げ磨きを夕食後に実施しているが、就寝時に哺乳瓶で授乳しているという。初診時の口腔内写真(別冊No. 20)を別に示す。

指導すべき内容として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a フッ化物洗口を勧める。
- b フッ化物歯面塗布を勧める。
- c 就寝時授乳の影響を説明する。
- d 上顎前歯部のガーゼ磨きを勧める。
- e 歯磨きを夕食後から夕食前に変更させる。

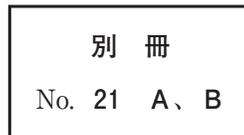
別 冊

No. 20

24 60歳の女性。咀嚼時の下顎顎堤粘膜の疼痛を主訴として来院した。上下顎全部床義歯は2年前に製作したが、何度調整を繰り返しても疼痛が軽減しないという。検査の結果、インプラント治療を行うこととした。治療法の説明に用いた模型の写真(別冊No. 21A、B)を別に示す。

21Aが21Bに比べて優れているのはどれか。2つ選べ。

- a 安定性
- b 咬合力
- c 清掃性
- d 義歯破損時の対処
- e リップサポートの回復



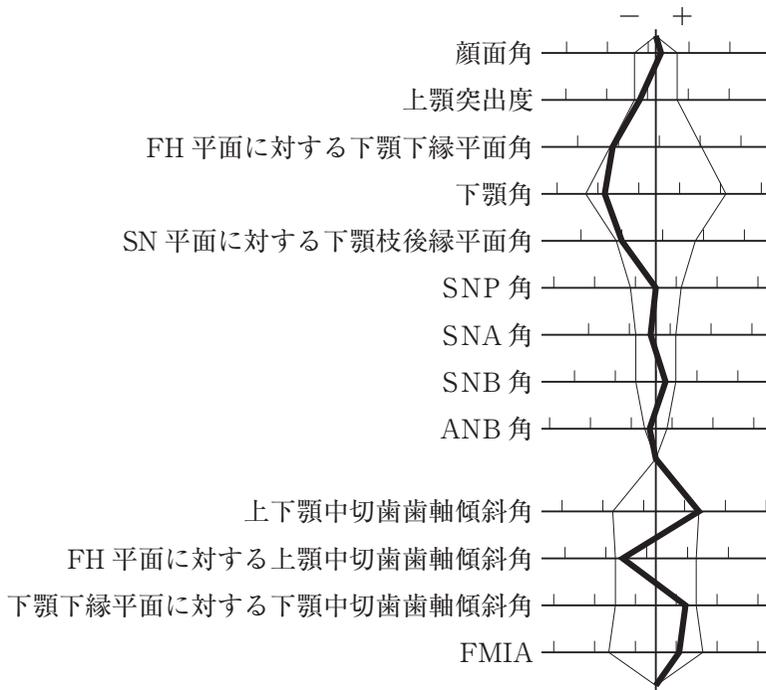
25 15歳の男子。下顎小白歯部の萌出遅延を主訴として来院した。検査の結果、上顎の劣成長に伴う反対咬合が認められる。精神発達は正常であるが、身長が低く肩幅が狭い。初診時のエックス線写真(別冊No. 22)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。1つ選べ。

- a Apert 症候群
- b 骨形成不全症
- c Crouzon 症候群
- d 鎖骨頭蓋骨異形成症
- e Treacher Collins 症候群



26 7歳の男児。前歯部の反対咬合を主訴として来院した。前歯の萌出交換後に気付いたという。上下顎中切歯に早期接触が認められた。初診時の顔面写真(別冊No. 23A)、口腔内写真(別冊No. 23B)及びエックス線写真(別冊No. 23C)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



適用する矯正装置はどれか。2つ選べ。

- a 咬合斜面板
- b チンキャップ
- c アクチバトール
- d リンガルアーチ
- e 上顎前方牽引装置

別冊  
No. 23 A、B、C

27 80歳の男性。入れ歯を口に入れられなくなったことを主訴として来院した。上下顎全部床義歯は10年前に製作し、問題なく使用していたが、最近口角部に疼痛を自覚していたという。副腎皮質ステロイド軟膏を処方したが、逆に悪化し、疼痛のため口が開けにくく、入れ歯を入れることが困難になったため再来院した。再来院時の開口時の写真(別冊No. 24)を別に示す。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬の処方
- b 義歯装着の指示
- c 抗真菌薬の処方
- d 受動的開口訓練
- e 口腔粘膜の清拭指導

別 冊  
No. 24

28 70歳の女性。咀嚼困難を主訴として来院した。検査の結果、上下顎全部床義歯を新製することとした。印象採得操作中の上顎個人トレーの写真(別冊No. 25)を別に示す。

矢印で示す部分の筋形成で行うのはどれか。2つ選べ。

- a 大きく開口する。
- b 唾液を嚥下する。
- c 下顎を左右に動かす。
- d 頬部を前後に牽引する。
- e 口唇・頬部をすぼめる。

別 冊  
No. 25

29 8歳の男児。左側唇顎口蓋裂で生後すぐに口唇形成術と口蓋形成術を受けた。今回自家骨の移植手術を行うこととなった。術中の写真(別冊No. 26)を別に示す。

手術の目的はどれか。2つ選べ。

- a 外鼻を高くする。
- b 鼻腔を広くする。
- c 鼻咽腔を狭くする。
- d 上顎骨を連続させる。
- e 顎裂部に歯を誘導する。

別 冊

No. 26

30 63歳の男性。咀嚼困難を主訴として来院した。1か月前に上顎左側のプロビジョナルブリッジを近医にて装着したが、すぐに破折し脱離を繰り返すという。肝硬変による出血傾向(血小板 $48,000/\mu\text{L}$ )を認める。初診時の口腔内写真(別冊No. 27 A)とエックス線写真(別冊No. 27 B)を別に示す。

咬合の安定のために上顎歯列に対してまず行うべき補綴処置はどれか。1つ選べ。

- a 根面被覆型暫間部分床義歯の装着
- b 残存歯を連結固定したブリッジの装着
- c 保存の難しい残存歯の抜去と即時義歯の装着
- d 補強線を埋入したプロビジョナルブリッジの再仮着
- e 合着用セメントを用いたプロビジョナルブリッジの装着

別 冊

No. 27 A、B

31 41歳の男性。顔面の非対称と話しづらいことを主訴として来院した。昨日、起床時に右側顔面部の異常に気付いたという。初診時の口角挙上時と口唇閉鎖時の顔貌写真(別冊No. 28)を別に示す。

発音の際に障害される可能性のある音はどれか。2つ選べ。

- a /b/
- b /k/
- c /p/
- d /s/
- e /t/

別 冊

No. 28

32 73歳の女性。左側耳前部の疼痛を主訴として来院した。昨夜、階段から転落してオトガイ部を強打したという。初診時のエックス線写真(別冊No. 29)を別に示す。

適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 小骨片の除去
- b 線副子を用いた顎間固定
- c ヒポクラテス法による整復
- d 金属プレートによる整復固定
- e 現有義歯の装着とオトガイ帽による固定

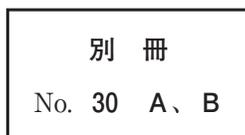
別 冊

No. 29

33 47歳の女性。前歯部欠損による咀嚼困難を主訴として来院した。初診時の研究用模型の写真(別冊No. 30A)と模型にある操作を行った写真(別冊No. 30B)を別に示す。

この操作の目的で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 切歯路角の計測
- b 患者への治療説明
- c 前装材の色調選択
- d 支台歯形成量の確認
- e 補綴装置着脱方向の確認



34 21歳の女性。強度の歯科治療恐怖症で、亜酸化窒素吸入鎮静下での抜歯が計画された。アドレナリン添加2%リドカイン塩酸塩1.8 mLを用い浸潤麻酔を行ったところ、呼吸困難、四肢のけいれん及び意識混濁が観察された。血圧は120/82 mmHg、脈拍数78/分、呼吸数24/分、SpO<sub>2</sub>99%で、動脈血液ガスはpH7.55、PaCO<sub>2</sub>28 Torr、PaO<sub>2</sub>280 Torrであった。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 気管支の収縮
- b 脳血管の収縮
- c 炭酸ガスの蓄積
- d 呼吸性アシドーシス
- e 血中カルシウム濃度の低下

35 45歳の女性。顎関節部の痛みを主訴として来院した。1年前に開口時の雑音を自覚したが、2か月前から雑音が消失し痛みが出てきたという。顎関節部に開口時痛を認める。開閉口位のMRIプロトン密度強調像(別冊No. 31)を別に示す。

関節円板の位置の組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。

- |   | 右側       | 左側       |
|---|----------|----------|
| a | 復位性前方転位  | 復位性前方転位  |
| b | 復位性前方転位  | 非復位性前方転位 |
| c | 正常       | 復位性前方転位  |
| d | 非復位性前方転位 | 正常       |
| e | 非復位性前方転位 | 非復位性前方転位 |

別冊  
No. 31

36 85歳の男性。摂食・嚥下障害を主訴として、訪問歯科診療の依頼があった。半年の間に10%の体重減少を示し、歩行は困難である。患者の舌上には食物残渣がみられる。訪問時の下肢の写真(別冊No. 32)を別に示す。

この患者の状態を示すのはどれか。1つ選べ。

- a アカラシア
- b ジストニア
- c サルコペニア
- d ジスキネジア
- e ディスアスリア

別冊  
No. 32

37 9歳の男児。右側臼歯部の咀嚼困難を主訴として来院した。検査の結果、まず上顎右側第一大臼歯の開窓を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊No. 33A)とエックス線写真(別冊No. 33B)を別に示す。

次に行うのはどれか。1つ選べ。

- a 下顎右側第一乳臼歯の形態修正
- b 下顎右側第一乳臼歯の抜去
- c 下顎右側第二乳臼歯の牽引
- d 上顎右側第二乳臼歯の抜去
- e 下顎右側第一大臼歯の整直

別 冊 No. 33 A、B
-------------------

38 6歳の女児。食事が摂りにくいことを主訴として来院した。1か月前に咬合面の変色に気付いたがそのままにしていたところ、3日前から食事時に痛みが生じ始めたという。上顎左側第二乳臼歯の動揺度は2度であった。初診時の口腔内写真(別冊No. 34A)とエックス線写真(別冊No. 34B)を別に示す。

まず行うのはどれか。1つ選べ。

- a 6 の遠心移動
- b E の遠心面削合
- c E の生活断髄
- d E の感染根管治療
- e E の抜歯

別 冊 No. 34 A、B
-------------------

39 37歳の女性。下顎前歯部の無痛性の腫脹を主訴として来院した。1か月前にかかりつけ歯科医で下顎前歯を抜去されたが、改善しないという。初診時のエックス線写真(別冊No. 35 A)、CT(別冊No. 35 B)及び生検時のH-E染色病理組織像(別冊No. 35 C)を別に示す。

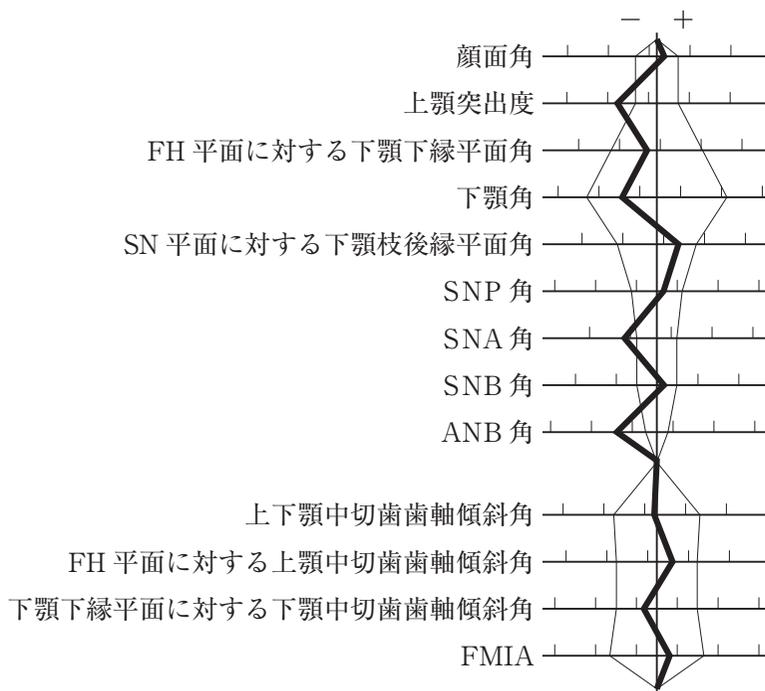
診断名はどれか。1つ選べ。

- a 歯原性粘液腫
- b エナメル上皮腫
- c 腺腫様歯原性腫瘍
- d 角化嚢胞性歯原性腫瘍
- e 石灰化嚢胞性歯原性腫瘍

別 冊

No. 35 A、B、C

40 8歳の男児。前歯部の咬み合わせの異常を主訴として来院した。家族に同様の咬み合わせはないという。他に特記すべき病歴はない。初診時の顔面写真(別冊No. 36 A)と口腔内写真(別冊No. 36 B)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



矯正治療に用いるのはどれか。2つ選べ。

- a チンキャップ
- b バイオネーター
- c リップバンパー
- d クワドヘリックス
- e 上顎前方牽引装置

別 冊  
No. 36 A、B

41 37歳の男性。上顎右側中切歯部のブラッシング時の出血を主訴として来院した。歯周炎と診断し、ブラッシング指導と歯肉縁上スケーリングを行った。処置前と処置3週後の口腔内写真(別冊No. 37)を別に示す。

1) 部に生じた変化の組合せで最も考えられるのはどれか。1つ選べ。

ポケット深さ    アタッチメントレベル

- a 増加 ————— 増加
- b 不変 ————— 増加
- c 不変 ————— 不変
- d 減少 ————— 不変
- e 減少 ————— 減少

別 冊

No. 37

42 19歳の女性。反対咬合を主訴として来院した。術前矯正治療後に顎矯正手術を行うこととした。術前矯正中の口腔内写真(別冊No. 38A)、頭部エックス線規格写真(別冊No. 38B)及び手術中の写真(別冊No. 38C)を別に示す。

行っている手術はどれか。1つ選べ。

- a Köle 法
- b Kostečka 法
- c Le Fort I型骨切り術
- d Obwegeser-Dal Pont 法
- e Wassmund-Wunderer 法

別 冊

No. 38 A、B、C

43 38歳の男性。下顎左側第二大臼歯の食事中の鈍痛を主訴として来院した。2年前から同部に痛みを感じていたが、そのままにしていたという。探針で齶窩を触診すると出血し、歯髄電気診で生活反応を認めた。初診時の口腔内写真(別冊No. 39 A)とエックス線写真(別冊No. 39 B)を別に示す。

考えられるのはどれか。1つ選べ。

- a 乳頭腫
- b エプーリス
- c 急性化膿性歯髄炎
- d 慢性潰瘍性歯髄炎
- e 慢性増殖性歯髄炎

別 冊 No. 39 A、B
-------------------

44 35歳の男性。下顎右側第一小臼歯の冷水痛を主訴として来院した。コンポジットレジンインレー修復を行うこととした。完成した修復物の写真(別冊No. 40 A)とその装着過程の写真(別冊No. 40 B)を別に示す。

装着の手順で正しいのはどれか。1つ選べ。

- a ア→イ→ウ
- b ア→ウ→イ
- c イ→ア→ウ
- d イ→ウ→ア
- e ウ→ア→イ
- f ウ→イ→ア

別 冊 No. 40 A、B
-------------------

45 65歳の女性。下唇と口腔粘膜の着色を主訴として来院した。5年前から気になっていたがそのままにしていたという。家族歴でも弟に同様の症状が認められる。初診時の口腔内写真(別冊No. 41)を別に示す。血液検査の結果を表に示す。

赤血球	: 450 万/ $\mu$ L
ヘモグロビン	: 13.5 g/dL
ヘマトクリット	: 38%
白血球	: 4,500/ $\mu$ L
血小板	: 22 万/ $\mu$ L
CRP	: 0.1 mg/dL
コルチゾール	: 8.5 $\mu$ g/dL (基準値 4 ~18 $\mu$ g/dL)
ACTH	: 37.7 pg/mL (基準値 9 ~52 pg/mL)

合併している可能性が高いのはどれか。1つ選べ。

- a 神経線維腫症
- b 大腸ポリポージス
- c 副腎皮質機能低下症
- d 角化嚢胞性菌原性腫瘍
- e 多骨性線維性異形成症

別 冊  
No. 41

46 71歳の男性。下の前歯が見えないことを主訴として来院した。7年前に部分床義歯を製作したが、現在は使用していないという。暫間義歯を製作することとした。初診時の閉口時と開口時の口腔内写真(別冊No. 42)を別に示す。

前歯の被蓋を決める際に参考となるのはどれか。2つ選べ。

- a 咬合音
- b 咀嚼能率
- c 安静空隙量
- d 最大開口量
- e 側面頭部エックス線規格写真

別 冊  
No. 42

47 57歳の男性。上顎左側歯肉の腫瘍を主訴として来院した。3か月前に気付いたが、痛みがないためそのままにしていたところ、徐々に大きくなってきたという。鼻漏や頸部リンパ節の腫脹はない。初診時の口腔内写真(別冊No. 43A)、エックス線写真(別冊No. 43B)、CT(別冊No. 43C)及び生検時のH-E染色病理組織像(別冊No. 43D)を別に示す。

行うべき処置はどれか。1つ選べ。

- a 洗 浄
- b 副腎皮質ステロイド軟膏塗布
- c 切除・搔爬
- d 上顎洞根治術
- e 上顎部分切除術

別 冊  
No. 43 A、B、C、D

48 2歳10か月の男児。下顎乳前歯部の歯肉の異常を主訴として来院した。2か月前に転倒して下顎左側乳側切歯が挺出したため、近医で整復固定処置を受けたという。腫脹部に波動を触れる。自発痛はないが咬合痛がある。初診時の口腔内写真(別冊No. 44A)とエックス線写真(別冊No. 44B)を別に示す。

消炎後に行う処置はどれか。1つ選べ。

- a 抜 歯
- b 咬合調整
- c 歯根尖切除
- d 感染根管治療
- e 歯周ポケット搔爬

別 冊

No. 44 A、B

49 28歳の女性。下顎右側中切歯部歯肉の審美不良を主訴として来院した。矯正治療の既往がある。まず歯周基本治療を行った。再評価時の口腔内写真(別冊No. 45 A)とエックス線写真(別冊No. 45 B)を別に示す。再評価時の歯周組織検査結果の一部を表に示す。

舌側*	2	2	2	1	2	2
歯種	1			1		
唇側*	3	1	2	2	2	2
動揺度	0			0		

\*：プロービングデプス(mm)

適切な治療はどれか。1つ選べ。

- a ENAP
- b フラップ手術
- c 歯周ポケット搔爬術
- d 歯肉結合組織移植術
- e 歯肉弁根尖側移動術

別冊  
No. 45 A、B

50 70歳の男性。鼻下部の無痛性の腫脹を主訴として来院した。10年以上前から自覚しており、緩徐に増大してきたという。初診時のMRI T1強調像(別冊No. 46A)と脂肪抑制 T2 強調像(別冊No. 46B、C)及び超音波検査の画像(別冊No. 46D)を別に示す。

考えられるのはどれか。1つ選べ。

- a 歯根嚢胞
- b 歯周嚢胞
- c 類表皮嚢胞
- d 鼻口蓋管嚢胞
- e 術後性上顎嚢胞

別 冊 No. 46 A、B、C、D
-----------------------

51 9歳の男児。噛み合わせの異常を主訴として来院した。検査の結果、機能性下顎前突症と診断した。矯正装置装着時の口腔内写真(別冊No. 47)を別に示す。

この装置の目的はどれか。1つ選べ。

- a 上顎骨の前方成長促進
- b 上顎前歯部空隙の閉鎖
- c 上顎歯槽基底弓の側方拡大
- d 上顎中切歯の唇側傾斜移動
- e 上顎第一大臼歯の遠心歯体移動

別 冊 No. 47
---------------

52 86歳の女性。顎下部の無痛性の腫脹を主訴として来院した。1か月前から自覚し、徐々に増大してきたという。初診時の造影CT(別冊No. 48A)、MRI脂肪抑制T2強調像(別冊No. 48B)及び生検時のH-E染色病理組織像(別冊No. 48C)を別に示す。

診断名はどれか。1つ選べ。

- a 血管腫
- b 脂肪腫
- c 神経鞘腫
- d 多形腺腫
- e 悪性リンパ腫

別 冊

No. 48 A、B、C













